胆振地域公共交通計画推進管理状況（概要）

資料2－1

基本方針　1　持続可能な公共交通の維持・確保

目　標　1　公共交通の担い手確保、3　官民連携による取組の推進、4　公共交通の利便性向上・利用の促進

R７年度の主な取組（成果）

施策①　公共交通を担う人材の確保に向けた魅力発信や自治体施策との連携

道南バス会社説明・運転体験会（室蘭市）

道南バス会社説明・運転体験会（苫小牧市）

・北海道運輸局が自衛隊千歳駐屯地で開催した「自衛官向けバス・トラック・タクシー運転体験会・合同就職相談会」に協力〈協議会〉

・第二種免許取得費に対する助成を実施〈室蘭市、安平町〉

・バス事業者と連携し、運転体験会や企業説明会を開催〈室蘭市・苫小牧市〉

・運転手確保に向け、多くの人に仕事内容を知ってもらい、バス事業を身近に感じてもらえるよう、採用説明会や運転体験会、インターンの受入などを実施〈道南バス、あつまバス〉

施策②　地域内外に向けた情報提供の継続的な実施

・幅広い方に運転手へ興味をもってもらえるよう、運転手として活躍している女性へのインタビュー記事を発信〈室蘭市〉

・地域住民に公共交通を身近に感じてもらい、利用促進を図るため、バスをテーマとしたシンポジウムに協賛〈北海道、苫小牧市、道南バス〉

施策③　広域交通等の維持・最適化に向けた連携体制の構築による取組の推進

・協議会への出席や各市町・事業者間での個別協議を行うなど、公共交通の維持・確保に向けた取組を実施

R８年度の主な取組

■運転手確保に向けた施策の実施（チラシ・ポスター等の作成・配布や関東・関西圏への移住フェア出展等）[市町、北海道、事業者、協議会]
■第2種免許取得費に対する助成[室蘭市、安平町]
■引き続き、協議会や個別協議を行い、今後の取組の検討や情報の共有を行う[関係機関]

評価指標（KPI）	基準値（基準年）	実績値（実績年）	目標値（目標年）
公共交通利用者数（1人あたり利用回数）【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	1,730千人（R4） （4.6回/人・年度）	1,881千人（R7） （5.2回/人・年度）	1,885千人（R10） （5.4回/人・年度）
公共交通の収支率【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	46.3%（R4）	71.4%（R7）	54.1%（R10）
公共交通への公的資金投入額【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	396,142千円/年度（R4）	278,810千円/年度（R7）	459,449千円/年度 （R10）

胆振地域公共交通計画推進管理状況（概要）

基本方針　2　幹線・広域・生活圏交通が一体となった接続性の向上

目　標　1　公共交通の担い手確保、3　官民連携による取組の推進、4　公共交通の利便性向上・利用の促進

R７年度の主な取組（成果）

施策④　広域交通等の利用実態を踏まえた路線最適化の実施

・路線の利用実態等を鑑み、関係市町及び交通事業者で協議を行い、既存路線の経路変更等により路線の再編を実施〈北海道、関係市町、道南バス〉

・胆振東部地域におけるバス乗り込み調査を実施〈協議会〉

・交通空白地域における移動の足を確保するためデマンド交通やライドシェアの実証運行を実施〈苫小牧市、登別市、伊達市、白老町、洞爺湖町、安平町、むかわ町〉

安平町公共ライドシェア実証運行

施策⑤　幹線交通と広域交通、生活圏交通のシームレス化のさらなる推進

・公共交通の利用促進を図るためMaaS構想を策定・検討〈苫小牧市、伊達市〉

・スマホやパソコンで、バスの走行位置等をリアルタイムで把握することのできるバスロケーションシステム（バスキタ道南）を周知〈道南バス〉

R８年度の主な取組

■国の動向や先進事例等の共有及び活用可能性の検討[市町、事業者、北海道]
■交通空白地域におけるライドシェアやデマンド交通の実施・検討[伊達市、白老町、洞爺湖町、安平町]
■持続可能な移動手段の確保に向けた検討・実施[市町、事業者、北海道]

評価指標（KPI）	基準値（基準年）	実績値（実績年）	目標値（目標年）
公共交通利用者数（1人あたり利用回数）【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	1,730千人（R4） （4.6回/人・年度）	1,881千人（R7） （5.2回/人・年度）	1,885千人（R10） （5.4回/人・年度）
公共交通の収支率【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	46.3%（R4）	71.4%（R7）	54.1%（R10）
公共交通への公的資金投入額【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	396,142千円/年度（R4）	278,810千円/年度（R7）	459,449千円/年度 （R10）

胆振地域公共交通計画推進管理状況（概要）

基本方針　3　公共交通の利用促進による持続性の確保

目　標　2　公共交通利用に対する意識醸成、3　官民連携による取組の推進、4　公共交通の利便性向上・利用の促進

R７年度の主な取組（成果）

施策②　地域内外に向けた情報提供の継続的な実施

・地域住民のバス利用へのきっかけづくりを図るため、バスの乗降を実際に体験してもらうほか、市町とバス事業者が連携したバスの乗り方教室を開催〈苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、道南バス〉

バス乗り方教室（バスシンポジウムin苫小牧）

・公共交通の需要拡大と利用定着を目的に、ノーカーデーの取組を実施〈北海道〉

・ダイヤ改正に合わせて、公共交通マップ等の更新・配布を実施〈室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、白老町、厚真町、洞爺湖町、安平町〉

・デマンド交通の利用方法について、保護者を対象に町内中学校へ出張説明会を実施〈厚真町〉

・改訂した地域公共交通計画に基づき町内のバス路線の再編を協議〈豊浦町〉

「ノーカーデー」周知チラシ

R８年度の主な取組

■交通事業者による採用説明会等の実施、協力[市町、事業者、北海道]
■地域公共交通利便増進実施計画の策定[豊浦町、洞爺湖町]
■総合時刻表や公共交通ガイドマップ等の更新及び配布[室蘭市、苫小牧市、登別市、伊達市、白老町、厚真町、安平町]

評価指標（KPI）	基準値（基準年）	実績値（実績年）	目標値（目標年）
公共交通利用者数（1人あたり利用回数）【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	1,730千人（R4） （4.6回/人・年度）	1,881千人（R7） （5.2回/人・年度）	1,885千人（R10） （5.4回/人・年度）
公共交通の収支率【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	46.3%（R4）	71.4%（R7）	54.1%（R10）
公共交通への公的資金投入額【地域間幹線系統・広域生活交通路線】	396,142千円/年度（R4）	278,810千円/年度（R7）	459,449千円/年度 （R10）